

1. 研究目的

毎日残業して帰宅時間が遅くなってしまい、やるべきことを省いてしまう女性が増えている。この現状を踏まえ、本研究では仕事で疲れた女性に入浴する良さを体感し、リラックスしてもらうことを目的に研究をした。

2. 調査と分析

ネット媒体で20代の女性にアンケート調査を調査したところ、疲れて帰宅したとき入浴せずにシャワーで済ませてしまうケースが多いことがわかった。特に夏場は暑いのでそのような傾向がみられる。また、半身浴に関心を寄せる人もたくさん居たことから、同じアプローチをすることによって入浴してもらえるのではないかと考えた。

抱き枕は胎児姿勢になることによってリラックスして安眠できるものである。この胎児姿勢とは、何かを抱きかかえているかのように身体を丸めている姿勢で、「守られている安心感」を覚えさせられる。また、38〜40度のお湯の温かさは、羊水の温度と一緒だと言われている。このぬるま湯の中で抱き枕を使用することによって、赤ちゃんがお母さんのお腹に入っているときの環境を再現できると推測した。

お風呂の温度、胎児姿勢、抱き枕をキーワードに、入浴を効果的にしてもらい、リラックスできるものを提案する。

3. コンセプトの立案

- ・お風呂で使う抱き枕
- ・入浴時に胎児姿勢になれる
- ・安らぐことができる

4. デザイン展開

提案するにあたって、① 胎児姿勢がとれること ② 安らげること ③ 抱き心地がよいことの3つを条件とし、1/1 スケールで試作に取り組んだ。また、この抱き枕は入浴時で使用するものなので、水はけの良いもの、軽量であることに重点をおいて素材の検討をした。

抱き枕の機能性を高めるため、外側のカバーは肌触りが良いもので、水はけの良いメッシュの布を検討した。入浴時に、より安らげるように抱き枕を使用してもらうために以下の2つのタイプを提案した。

① 腕を抱き枕の中に入れて抱えるタイプ

② 胴にフィットさせて抱き込むタイプ

抱き枕の大きさはお腹に抱えるものを前提として、腰から顎の下に納まるよう設定した。それにより抱えながら顎や頭を乗せることができ、胎児姿勢が生まれる。

普通の布に綿を詰めて試作をし、2種類の試作品で検証したところ、抱き心地が良い、落ち着くことができるなど好評を得ることができたので、2つの形を採用した。最終検証では実際にお風呂で使用してもらったところ、水はけが良いことに加え、抱き枕自身もお湯につかることで熱を保ち、機能面での評価を得ることができた。しかし、抱き心地の面ではメッシュの生地なので中の素材が出てしまい、チクチクしてしまうことや、布自体の肌触りが悪いといった意見を受けた。カバーの内側にきめ細かい布を重ね、再検証を行った。また、②のモデルをメッシュの布ではなく、滑らかな素材にした。これらの使用後は洗濯機で脱水し、乾かしてもらうことを考えている。

5. 完成図



モデル①



モデル②

6. 結論

お風呂で使用できるという機能性の面では提案した条件を達成することはできた。しかし、試作品に比べ、最終案は抱き心地が悪くなってしまった。これは布ではない素材の検証を更に行う必要があり、繊維の研究を深めなければいけないと感じた。

文献

バスクリン“入浴の効果”

<http://www.bathclin.co.jp/happybath/nyuyoku/effect/>
(参照 2013-10-24)